

平成31年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画の抜粋 <圏域課題・活動方針・具体的な取組み>

【資料3】

区	センター名	高齢者人口	高齢化率	
中央区	新千葉	9,483人 (9,414人)	23.82% (24.16%)	<p>【圏域課題】市の中心部に近い住宅密集地が圏域。1人暮らしや夫婦のみの世帯も多く、孤立化や介入の遅れによる重度化が危惧されるため、地域での見守り体制の構築や交流の場の創出が課題。</p> <p>【活動方針】インフォーマルサービスの拡充、関係機関とのネットワークの構築による問題解決能力の向上を目指す。</p> <p>【具体的取組】中央東地区部会と地域課題解決に向けた地域ケア会議を定期的に開催し地域課題や個別事例の解決や必要な社会資源の創出等を目指す。生活支援コーディネーターと協働で地域住民のニーズ調査を実施。</p>
	中央	8,351人 (8,256人)	18.90% (18.98%)	<p>【圏域課題】地域住民が主体となった生活支援や介護予防活動等の社会資源が乏しい。担当圏域内だけでも中学校地区が4か所含まれており、各地区で課題が異なる。</p> <p>【活動方針】地域の実情に合わせて地域ケア会議を展開し、ネットワークの構築をはかる。生活支援コーディネーターと連携し、地域住民に対する啓発活動、ニーズ調査の展開に努める。</p> <p>【具体的取組】新宿1丁目、新田町において、地域住民に対してニーズの把握と担い手になってくれる人の発掘を目的とした調査を行う。この地域に必要な住民主体の支え合い活動や担い手確保について関係機関と協議する。</p>
	千葉寺	7,310人 (7,274人)	22.65% (22.69%)	<p>【圏域課題】地域組織への加入率の低下、世代間、地域間での差があり、垣根を越えた支援体制の構築などが課題。</p> <p>【活動方針】地域活動の支援や介護予防の意識啓発を行うとともに、認知症や介護が必要な状態等になっても、住み慣れた地域で生活が継続できるよう、世代や業種の垣根を越えた支援ネットワークの構築を目指す。</p> <p>【具体的取組】末広地区社協地域等において、高齢期の生活や認知症への住民意識を知り、意識差へ働きかけるべく意見交換を行う。その他の地域においても、地域課題の抽出や地域の強みを発見し、適切な支援につなげる。</p>
	松ヶ丘	16,026人 (15,779人)	23.77% (23.47%)	<p>【圏域課題】高齢単身もしくは夫婦世帯からの生活支援の需要に対し、住民同士の支え合いによるネットワーク構築がまだ十分に発達したとは言えない地域がある。「住民同士の通いの場」が整っていない地域がある。</p> <p>【活動方針】地域の高齢者一人一人の人生がより充実したものになるような地域包括ケアシステム実現を目指し、基盤となるネットワーク構築に重点を置いて活動する。</p> <p>【具体的取組】仁戸名町(市営住宅)において、実態・課題把握、社会資源の提供を行う。また、今井町において民児協定例会への参加や地域ケア会議を通じ、地域課題抽出や社会資源開発に向けた関係構築の足掛かりとする。</p>
	浜野	6,235人 (6,165人)	25.75% (25.45%)	<p>【圏域課題】入院できる病院や医療機関、大型スーパーといった生活に密着した施設が少ないことが課題。駅から遠い地域に住む方の日常的な移動や町内会等の担い手不足も課題。</p> <p>【活動方針】その人の状態に応じて、介護・予防・医療・住まい及び生活支援サービスを継続して提供する体制、地域に暮らす全ての人々が安心して暮らせるための社会を目指し、センターの周知や地域活動への参加を実施する。</p> <p>【具体的取組】小田急浜野団地自治会等において、地域住民が自ら率先して介護予防に取り組み、気軽に集まれる活動場所として定着することを目的とし、体操を行うサークルの立ち上げとリーダー育成を行う。</p>
花見川区	こてはし台	6,629人 (6,609人)	35.82% (35.24%)	<p>【圏域課題】こてはし台地域は高齢化率が50%を超え、独居含む高齢世帯が多い。ボランティア団体など支援者側の高齢化が進み、今後の支援体制に不安。社会資源が乏しく、介護予防活動が停滞しがちな地域がある。</p> <p>【活動方針】地域ケア会議を継続し、住人と共に地域の高齢化に伴う課題を一つ一つ丁寧に検討していく。社会資源が乏しい地域に対してのアプローチを検討し、関係機関と共に活動の場を開拓していく。</p> <p>【具体的取組】国道16号の北側地域は、社会資源が少なく、介護予防活動も停滞しがちなため、民生委員等との関係構築、健康課・生活支援コーディネーターとの連携による対象地域の課題整理、サロンの周知活動等を行う。</p>
	花見川	12,222人 (12,220人)	36.58% (36.04%)	<p>【圏域課題】担当圏域で最も高齢化率が高い花見川団地では、相談内容について認知症に関する相談が多く、支援体制の構築が課題。</p> <p>【活動方針】高齢化率が高く認知症の相談が多い、花見川団地に向け「認知症になっても安心して生活できる団地を目指す」をテーマに啓発活動を行なっていく。</p> <p>【具体的取組】花見川団地において、団地商店街組合に向けた認知症サポーター養成講座の開催、認知症カフェの開催と内容の検討を行い、認知症への正しい知識や理解を深め、見守りや相互支援の意識を高める。</p>
	さつきが丘	6,879人 (6,785人)	32.27% (31.61%)	<p>【圏域課題】独居、高齢者、障がい者を抱える世帯が増えている。インフォーマルサービスの充実や新たな社会資源の発掘が行えていない地域がある。</p> <p>【活動方針】相談件数の多寡に関わらず、圏域内における活動を公平に行っていく。各地区の課題を明確化し、課題解決に向けた取り組みを地域住民と一緒にやる。</p> <p>【具体的取組】さつきが丘地区において、適切な地域支援の継続と新たなニーズ把握のため高齢者を中心に全戸把握を目指す。住宅点在地域の千種町地区において地区特性調査等を行い、孤立化防止の支援を行う。</p>
	にれの木台	5,812人 (5,732人)	33.58% (32.82%)	<p>【圏域課題】URの中高層住宅にはエレベーターがなく下肢筋力が低下している高齢者は外出の機会が減少し閉じこもりがちとなっている。また、圏域内に独居や高齢者夫婦世帯も多く、高齢者の孤立を予防することが課題。</p> <p>【活動方針】地域の関係機関との連携による適切で迅速な支援体制の促進、ネットワーク構築、地域課題やニーズ把握による地域住民との協働での課題解決に取り組む。</p> <p>【具体的取組】朝日ヶ丘2丁目やUR賃貸住宅において、新規の居場所づくりや健康教室・ラジオ体操の周知等を行い、気軽に話ができる場をつくることで、閉じこもり防止や精神的な安定を図り、介護予防と地域活性化につなげる。</p>
	花園	7,124人 (7,053人)	21.65% (21.52%)	<p>【圏域課題】独居・高齢者世帯が多い地域においては、地域交流の希薄さから、地域住民が互いに不安を感じるといった意見がある。また、地域住民の認知症に対する理解、独居や認知症の方の災害時の避難体制の確保が課題。</p> <p>【活動方針】地域住民が安心して地域に住み続けられるよう、地域住民や関係機関との連携を大切にする。</p> <p>【具体的取組】花園地域の見守りネットワーク強化のため「花園地域版我がこと・まるごと」をテーマとし、自治会と年間計画を協議し、自治会館単位での認知症サポーター養成講座や個別事例地域ケア会議を定期開催する。</p>

高齢者人口及び高齢化率は平成30年9月末現在 ※()内数値は平成29年9月末

平成31年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画の抜粋 <圏域課題・活動方針・具体的な取組み>

【資料3】

花見川区	幕張	9,653人 (9,446人)	18.14% (18.07%)	<p>【圏域課題】1930年頃築の建物の当初入居者が高齢期を迎えている。独居、高齢、単身未就労の子供と高齢者の世帯が増加し、経済的問題や認知症介護問題等複合的な相談が多い。小規模自主活動的グループの継続等も課題。</p> <p>【活動方針】住民の自主的な活動が継続できるような支援、住民組織や多職種・多機関の連携の強化、顔の見える関係づくりを拡げること等により、様々なネットワークの構築を進める。</p> <p>【具体的取組】「認知症になっても暮らし続けられる町づくり」という考え方に導いていく。幕張町において、地域住民と共に介護予防教室を開催し、リーダーや仲間、地域の担い手を作り、地域課題と一緒に考えていく。</p>
稲毛区	山王	14,526人 (14,181人)	29.53% (28.80%)	<p>【圏域課題】地域コミュニティが機能している地域において、高齢化により支える力が弱くなってきている。自治会がない集合住宅等について、要支援者の把握が難しい地域がある。</p> <p>【活動方針】地域活動や地域ケア会議開催により、地域課題の抽出・解決を目指す。自治会のない地域に対し、民生委員などと連携し、要支援者の把握に努める。</p> <p>【具体的取組】いきいきサロンの運営における主催者との打ち合わせ実施や、支え合い活動の立上げにおいて、講座開催や、自治会・民生委員・社会福祉協議会等との連携によって、運営の支援を行う。</p>
	園生	6,734人 (6,577人)	27.11% (26.30%)	<p>【圏域課題】介護予防の活動ができていない地区がある。高齢化率の高い集合住宅が点在している。</p> <p>【活動方針】介護予防の活動がスムーズにできるよう、活動の立上げ支援と提案を積極的に行う。また、地域住民が自主的な活動として取り組むことができるよう、「共に」地域活動ができるような関係を築く。</p> <p>【具体的取組】認知症の方が住みなれた地域で安心して暮らせるよう、マンション住民が協力し合い支えていくため、認知症模擬訓練を開催する。また、地域で行う高齢者スポーツを知ることで、介護を要さない身体を目指し、地域住民同士が皆で楽しみながら参加できるよう情報発信を行う。</p>
	天台	5,458人 (5,350人)	28.92% (28.92%)	<p>【圏域課題】大型団地にエレベーターがなく、閉じこもりや買物・受診が困難な高齢者の体制づくりが課題となっている。また、地域の自主活動等が活発な地区と、高齢化が進み担い手不足となっている地区がある。</p> <p>【活動方針】抽出した地域課題解決に向け、地域ケア会議を通じ見守り体制強化を図る。また、身近な場所で介護予防活動を継続的に行える環境整備や、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指し、認知症カフェ、講座、若年層も含めた声かけ訓練等、全世代に対し認知症の理解を深めていく。</p> <p>【具体的取組】複数の地区において、認知症SOS声かけ訓練、サポーター養成講座を実施。また、地区部会や各関係者が持つ地域資源情報を一つの媒体で見える化することで、介護予防普及啓発・見守り体制拡大を図ることや、地域におけるケアマネ資質の平準化のための勉強会を計画的に行う。</p>
	小仲台	7,628人 (7,498人)	23.12% (22.61%)	<p>【圏域課題】自治会組織率が高いとは言えず、未加入の住民もいて地域交流の希薄さが指摘できる。一方、災害発生時等、孤立世帯などへ支援が必要になった際も、対応の糸口が自治会等組織頼みになると考えられる。また、介護予防活動の参加程度に地域差があり、希薄地域では自主活動に結びつかないことも課題。</p> <p>【活動方針】関係機関等が、地域との連携が図れる機会を持てるように高齢者情報や認知症サポーター養成講座などの情報を提供する。また、自主活動の後方支援を継続し、地域と関係構築を深化させていく。</p> <p>【具体的取組】サロン参加者を対象に基本チェックリストを使用し、個別相談を行うきっかけをつくる。保管している基本チェックリストを確認し、サロン参加時に、基本チェックリスト再実施を依頼し、昨年度との確認を行う。また、事業対象者等への働きかけ、地域活動への参加状況確認を行う。</p>
	稲毛	6,629人 (6,549人)	20.51% (20.39%)	<p>【圏域課題】近隣地域での集いや活動の場所が十分とはいえない。また、独居・高齢世帯も多く、認知症や経済的問題が生じても解決しない状態が続き、生命の危機に陥る可能性もある。情報提供や周知を行うも一部の方に留まっており、若い世代から高齢者まで伝達する手段の検討が課題。</p> <p>【活動方針】関係機関からの周知や情報提供がスムーズに行えるよう日頃からのネットワーク構築に努める。社会資源が不足する地域等での周知方法を見直し、新たな手段で活動を広げる。認知症施策として、認知症カフェの普及、講座、周知活動を積極的に行い、新たな世代とのネットワーク構築を目指す。</p> <p>【具体的取組】高齢者のニーズ調査にて必要とされる社会資源を発掘し、また、開拓するため、アンケート、地域ケア会議、自治会館でのイベント開催等を行う。</p>
若葉区	みつわ台	7,507人 (7,374人)	24.46% (24.02%)	<p>【圏域課題】自治会の数が多く地域が細分化されている。自治会活動を行う場所が少なく、自治会活動に支障をきたしている。昔から住んでいる居住者と新興住宅が混在している。</p> <p>【活動方針】生活支援コーディネーター等と連携を図り、サービス等資源の開発を支援する。地域ケア会議等で地域の支え合い活動団体との協議の場を持ち、地域課題の創出、実行性のある目標立てを行う。</p> <p>【具体的取組】東寺山町県営住宅において、出張相談を開催し、交通手段が乏しく、相談に足を運べない方に向けた生活面における不安の解消や閉じ籠り、引き籠りの防止に努めるとともに、必要な地域資源把握等に繋げる。</p>
	都賀	9,294人 (9,203人)	27.89% (27.43%)	<p>【圏域課題】高齢者世帯・独居世帯が増加し、精神疾患や障害等の絡む複合的な問題のある事例が増加している。地域によって住民の地域福祉に対する意識に差がある。</p> <p>【活動方針】各地域の特性や実情を踏まえたニーズを把握し、関係各機関と連携を図り、地域包括ケアシステムが構築できるよう努める。住民主体の活動が少ない地域については特に、ニーズ調査と啓発活動を行っていく。</p> <p>【具体的取組】若松台において、住民主体の活動支援、地域住民のニーズ調査、センター業務の周知等を通じて、民生委員・老人会・自治会・地域住民と顔の見える関係を作る。</p>
	桜木	8,318人 (8,177人)	26.24% (25.90%)	<p>【圏域課題】地域によって、連携の程度に差がある。身寄りのない一人暮らしの高齢者や介護者に精神疾患等問題のある等複合的な問題を抱えている事例が多く、地域との連携強化が課題。</p> <p>【活動方針】小さな単位の地域ケア会議開催や地域の行事への参加等を通じた活動を推進する。</p> <p>【具体的取組】地域や関係機関との連携を図りつつ、意見交換や地域課題とその解決策の検討を行う。居宅介護支援事業所間の連携及び資質の向上のため、居宅介護支援事業所を対象とする研修会等の企画支援を行う。</p>

高齢者人口及び高齢化率は平成30年9月末現在 ※()内数値は平成29年9月末

平成31年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画の抜粋 ＜圏域課題・活動方針・具体的な取組み＞

【資料3】

若葉区	千城台	12,451人 (12,376人)	33.86% (33.75%)	<p>【圏域課題】高齢化が進行した地域の、地域活動の担い手減少や高齢者見守りが課題。また、エレベーターが無い市営県営住宅や郊外地区に住む高齢者の外出や、一部廃止予定の市営団地居住者の移転先を探すこと等が課題。</p> <p>【活動方針】圏域内関係機関との連絡会や情報交換の場を設け、地域高齢者の実態把握や課題解決に向けたネットワーク構築を行う。活動の充実に向けて社協サロン関係者とも連携を強化し、通いの場の選択肢を増やす。</p> <p>【具体的取組】社協小倉地区部会のサロン開催時に、お困りごと相談、教養講座、体操等実施、会食サービス利用者の掘起こし、ミニ講座開催により、センター周知、閉じこもり防止、栄養状態改善、情報発信を行う。</p>
	大宮台	7,776人 (7,836人)	45.57% (45.15%)	<p>【圏域課題】高齢化率が45%を超えている。独居や高齢者世帯が多く、認知症(疑い)の方が増えており、ニーズや問題の把握が課題。また、圏域内の商店や開業医が減り、交通の利便性も良くないため、生活に支障が出ている。</p> <p>【活動方針】各地域の特性や実情、課題を地域ケア会議等を通じて把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、地域包括ケアシステムの構築・推進に取り組む。</p> <p>【具体的取組】高齢化率の特に高い大宮台・大宮町において、生活支援コーディネーターと情報共有を行い、集いの場の現状を把握するとともに、実際に出向き、生活圏域に集いの場をつくっていく。</p>
緑区	鎌取	9,482人 (9,180人)	15.62% (15.17%)	<p>【圏域課題】5～10年後に高齢化率が急速に高まると予測され、介護予防や生活支援の受け皿不足が懸念される。自治会加入率が低迷している地区等の地域連携の希薄さや、活動参加や支援体制に地域差があることも課題。</p> <p>【活動方針】地域ケア会議の開催等を通じた地区ごとの特性や課題を把握するとともに、健康な段階から介護予防や終活などに目を向け、自発的に取り組めるよう支援体制を構築する。</p> <p>【具体的取組】ワークショップ開催や課題解決のヒントを得るための公開講座開催により、地域の高齢者が、自らの生き方について考えながら、課題解決に向け「自発的」に進められるよう、動機付けを行う。</p>
	誉田	6,264人 (6,128人)	27.07% (27.08%)	<p>【圏域課題】駅周辺を除き、交通の便が悪く元気な高齢者であっても外出が難しい。また、昔からの住民が多く、新しい活動や組織が育ちにくい。古くからの農村部が多いが、積極的に家庭内の問題を相談しない傾向もある。</p> <p>【活動方針】積極的に地域へ出向き、きめ細やかに話をする機会を増やす。住民主体の集いの場や互助グループの立上げ支援に力をいれる。複数の課題を抱える世帯の課題解決に向け取り組んでいく。</p> <p>【具体的取組】大膳野町にて認知症高齢者声掛けSOS訓練を実施し、認知症高齢者を発見した際の流れを学び、認知症になっても安心して暮らせる地域にする。また、誉田町2丁目にてシニアリーダー体操の立上げを支援する。</p>
	土気	12,449人 (12,115人)	27.61% (26.72%)	<p>【圏域課題】孤独死や老老介護の発生、同居家族に精神疾患や障害を抱える等複合的課題をもつ世帯が多い地域がある。また、圏域内に入院可能な医療機関が少ないことや、移動に困る高齢者が多いことも課題となっている。</p> <p>【活動方針】高齢化率が高い地域では、地域の関係者と連携強化し地域課題の検討や認知症高齢者への声掛け訓練等を行い、比較的低い地区では、出張健康相談会等でセンター周知や介護予防啓発活動を積極的に実施する。</p> <p>【具体的取組】あすみが丘、あすみが丘東において、スーパーの空きスペースを利用し、センターの周知拡大と健康増進等を目的に出張相談会を実施(充実)。また圏域内の医療介護専門職間の顔の見える関係づくりを行う。</p>
美浜区	真砂	7,783人 (7,659人)	31.55% (31.06%)	<p>【圏域課題】独居・高齢世帯が多く、その中でも転入者(呼び寄せ高齢者・外国人等)が増えており、近隣との交流が希薄となり問題が潜在化しやすい。また、エレベーターのない高層住宅が多く、高齢者が閉じこもりがちとなっている。また、医療機関・介護サービス事業所が少なく、在宅医療や自立支援に向けた社会資源の選択が制限される懸念がある。</p> <p>【活動方針】地域住民の見守り意識向上や、支援が必要な方の早期発見、不足サービスや担い手の創出養成等に取り組み、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように適切な支援につなげる。</p> <p>【具体的取組】自治会やマンション管理組合への講演会、体力測定、活動支援、出張相談会により、見守り意識を向上させ、地域の見守りネットワークを構築する。また、昨年度立上げた作成委員会にて、セルフケア・セルフマネジメントに資するマップを作成し、同時に作成者側の地域の一員としての自覚を促進する。</p>
	磯辺	12,245人 (12,055人)	21.23% (20.95%)	<p>【圏域課題】エレベーターのない中層団地が多く、高齢者の外出が困難となる。圏域内に、医療機関、介護事業所等の社会資源や、高齢者の徒歩圏にある商店なども少ない。</p> <p>【活動方針】各地区の特性やニーズに合わせた地域づくりに向け、関係機関との連携を深めるとともに、住民主体の地域活動の促進を図る。また、地域ケア会議等により、地域課題を明確にし、共有を図り、課題解決に向け取り組む。</p> <p>【具体的取組】独居高齢者率が高い地域において、健康に対する意識の把握と分析により、地域の介護予防の意識を高めるため、アンケート実施や介護予防関連発行物の配布状況等把握を行う。</p>
	高洲	12,524人 (12,207人)	27.18% (26.46%)	<p>【圏域課題】独居率が高く高齢者世帯も多い。家族等のキーパーソンになる方が不在、遠距離在住等で問題に対する発見の遅れや対応困難にもつながっている。また、他市からの移住者が多く、地域資源やコミュニティの活用が難しく、引き籠りになる方が多い。</p> <p>【活動方針】総合相談件数が増える中で、関係機関との連携を図り効率よく支援を行う。センターが立上げた活動を住民主体へ移行させ、見守りや後方支援を行う。また、地域の社会資源把握に努め、住民や関係機関への周知を行う。</p> <p>【具体的取組】独居率が高く認知症の相談件数が多い地域において、後見制度の知識向上(専門機関との同行訪問や研修参加)、普及啓発、申立て準備等のフォロー、相談や活動の場への参加による見守りを通じた早期発見により、住み慣れた地域で安心した生活が送れる環境をつくる。</p>
	幸町	5,789人 (5,709人)	29.16% (28.06%)	<p>【圏域課題】支援者がいない高齢者や若年層支援の必要性も多く高く、独居、高齢世帯の孤立化、経済的困窮、精神疾患、家族問題、権利擁護が絡む複合的な問題を抱えた方もいるため、多岐に渡るネットワークの構築が課題。</p> <p>【活動方針】独居、高齢者世帯の見守り体制を検討し、問題の早期発見につなげる。ネットワークの強化を図ると共に、地域力の向上を目指す。</p> <p>【具体的取組】支え合い型通所支援事業の立上げによる通所リハビリ終了後等の受け皿となる場の創出を支援すること、また、支え合い型訪問事業の立上げ支援のため、地域のニーズや課題をアンケート調査等で把握し検討を行う。</p>

高齢者人口及び高齢化率は平成30年9月末現在 ※()内数値は平成29年9月末